

2026 東アジア平和国際学術会議

2026年9月12日(土)9時30分～17時40分

於：北海道大学学術交流会館第1会議室

9:30-10:00

開会あいさつ

玄武岩（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）／

キム・ヒョンジュ（全南大学 518 研究所副教授）／藍士博（二二八事件記念基金会事務局長）

10:00-12:00

第1セッション 司会：許仁碩（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授）

遺言なき遺産

——台日戦後補償訴訟を振り返る：『ポスト』戦後世代」法学生の視点から

発表者：宋梵遠（国立台湾大学法律学院法律学系修士課程）

コメンテーター：尾崎一郎（北海道大学大学院法学研究科教授）

破局を身体切断として形象化した芸術に関する美学的解釈

——アドルノの破局と身体概念を中心に

発表者：イム・ミョンギョ（全南大学 518 研究所専任研究員）

コメンテーター：玄武岩

戦後日本の市民社会における「明るい近世日朝関係史」像の受容

——辛基秀(1931-2002)の朝鮮通信使研究を手がかりに

発表者：山口祐香（九州大学韓国研究センター助教）

コメンテーター：キム・ユジン（全南大学 518 研究所専任研究員）

12:00-13:00

休憩

13:00-15:00

第2セッション 司会：玄武岩

民主化時代における韓国と台湾長老教会のトランスナショナルな連携&ネットワーク

発表者：姜基愛（東京大学大学院法学政治学研究科博士課程）

コメンテーター：余佩真（二二八事件記念基金会副研究員）

普遍的記憶が失敗する時

——帝国主義-冷戦の二重構造と西欧記憶理論の脱植民地主義的な限界

発表者：チョン・ソンユン（全南大学 518 研究所専任研究員）

コメンテーター：藍士博

トラウマインフォームド(Trauma-informed)な克服の道

——2026年「台湾史補習ブーム」現象と記憶のナラティブ分析

発表者：何佳穎（国立政治大学台湾文学研究所博士課程）

コメンテーター：キム・ヒョンジュ

15:00-15:20

休憩

15:20-16:40

第3セッション 司会：武藤優（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院学術研究員）

ホン・ソングムの「五月版画―夜明け」(1981-1989)に刻まれた国家暴力の実像と視覚的証言

——東アジア冷戦秩序と国家暴力の再現

発表者：ヤン・チョンエ（エディンバラ大学文学・言語・文化学部博士課程）

コメンテーター：オ・ウニョン（全南大学 518 研究所専任研究員）

占領下における記録と法の連帯

——カメラマン松本久弥と弁護士布施辰治が挑んだ「国家暴力」への抵抗

発表者：丁智恵（東京工芸大学芸術学部准教授）

コメンテーター：許仁碩

16:40-17:30

座談会 藍士博／キム・ヒョンジュ／玄武岩

17:30

閉会あいさつ 許仁碩